

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	262019	事業期間	平成 26 年度～平成 30 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
英文誌編集体制強化および電子化の推進		一般社団法人 日本教育学会	会長 広田 照幸
学術刊行物の名称			(略称)
Educational Studies in Japan: International Yearbook/『教育学研究』(The Japanese Journal of Educational Research)			ESJ

【平成 28 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>日本の教育の卓越性には海外からの関心が高く、教育研究成果の公開に期待が高いことから、質の高い英訳（文章表現の専門的な校閲）や制作刊行（XML 出版）に取り組み、その成果がダウンロード数の上昇に繋がっていることは評価できる。</p> <p>今後は、単にダウンロードの数を追うだけでなく、ダウンロードの内容を分析して、日本の教育の現状や教育学としての成果が、世界の同分野へどのようなインパクトをもたらし、教育学研究の交流・発展に資することに繋がったのかという視点での評価を期待したい。</p> <p>ダウンロードの地域・機関毎の集計や、国内外検索サイトとの連携効果を測る手段として論文閲覧に至った経路（referrer）など、多面的な分析に繋げることが、評価方法として望まれる。</p>	